

第3章 函館本線踏破（小樽～函館）

平成28年6月15日（水）～6月27日（月）、函館本線中の小樽から函館までの営業キロ252.5kmの踏破に成功する。踏破計画は、下記の通りであるが、森駅から大沼駅までの歩きコースの当初を砂原回りであったが、ホテルエクセルインのマスターや森駅の駅員さん等の提言を受け、特急が走るまた国道5号線がほぼ平行して走る駒ヶ岳回りに変更する。この変更により、営業キロが35.3kmから22.5kmに縮まる。この結果、森から大沼までの歩きが、2駅先の新函館北斗（旧渡島大野）まで延長できる。また、最終日の営業キロが27.0kmから17.9kmにカットされ、3時間位早く函館に到着することができる。



飛行機上空より

第1節 旅プラン（営業キロ252.5km）

○6月15日（水）SKY711便 羽田11:00→新千歳12:35

新千歳 13:03→札幌 13:40

札幌 14:00→小樽 14:39

スマイルホテル小樽本館（0134-33-0333）

○6月16日（木）小樽6:13→然別（しかりべつ）6:53

然別～仁木～余市～蘭島～塩谷～小樽（28.4km）

スマイルホテル小樽

○6月17日（金）小樽6:13→然別6:53

然別～銀山～小沢～倶知安（30.8km）

ビジネス駅前ホテル（0136-22-0001）

○6月18日（土）倶知安7:50→蘭越8:25

蘭越～昆布～ニセコ～比羅夫～倶知安（29.9km）

ビジネス駅前ホテル

- 6月19日(日) 倶知安6:24→蘭越7:01
蘭越～目名～熱郭(ねっぶ)～黒松内(31.1km)
黒松内18:12→長万部18:35
ホテルエクセルイン(01377-2-5806)
- 6月20日(月) 長万部5:58→黒松内6:22
黒松内～蕨岱(わらびたい)～二股～長万部(20.0km)
ホテルエクセルイン
- 6月21日(火) 長万部6:37→八雲7:13
八雲～鷺ノ巣～山崎～黒岩～北豊津～国縫～中ノ沢～長万部(31.2km)
ホテルエクセルイン
- 6月22日(水) 長万部6:37→八雲7:13
八運～山越～野田生～落部～石倉～本石倉～石谷～桂川～森(31.6km)
ビジネスホテルプレスコ(01374-2-6451)
- 6月23日(木)
森～姫川～東山～駒ヶ岳～赤井川～大沼公園～大沼～仁山～新函館北斗(31.6km)
新函館北斗 18:09→18:25(スーパー北斗16号)
東横イン函館駅前朝市(0138-23-1045)
- 6月24日(金) 函館8:48→9:07 (夕方家内と合流し函館・小樽・札幌観光)
新函館北斗～七飯～大中山～桔梗～五稜郭～函館(17.9km) 東横イン函館
※家内はやぶさ13号(大宮発10時46分)で新函館北斗へ。
- 6月25日(土)
函館観光
東横イン函館
- 6月26日(日)
スーパー北斗5号 函館8:54→札幌12:41(昼食は駅弁)
札幌13:07→小樽13:45 小樽観光、夕食
小樽 17:04→札幌 17:36

東横イン札幌北口(011-728-1045)

○6月27日(月) 札幌観光

札幌 13:10→新千歳 13:47

SKY720 便 新千歳 16:15→羽田 17:50



第2節 1日目：6月15日(水) 晴れ

昨夜概ねの準備をして、今朝、5時半頃起床し、北海道の旅への準備をする。家内に南林間駅まで送ってもらい、南林間8時5分、大和8時16分と乗り継いで羽田空港には9時半頃到着。天気恵まれ飛行機からの眺めは最高であった。上空から円い沼または湖と月型の沼が2個見えて来たが、果たしてどこなのか不明。新千歳空港に着くと、余市のウイスキーの看板が目についた。新千歳13時の快速で小樽駅に向かう。小樽駅には14時17分到着。一番ホームにある石原裕次郎氏写真記念碑をデジカメに収める。14時25分、三角市場のあい田でカニやいくらなどの具が入った3色丼(1500円)を頂く。この三角市場は半年位前テレビ放映され強く印象に残っていた。三角市場の前には石川啄木歌碑があった。スマイルホテル本館には15時21分到着。部屋は502号室であった。ホテルチェックイン後、小休止して、小樽市内を観光。手宮線跡地、運河プラザに立ち寄る。ここから郵便はがきを購入し、お袋と家内に現在の心境を知らせる。このプラザで最初のソフトクリームを頂く。その後小樽運河を1時間半位散策。手宮線跡地の色内駅まで足を延ばす。サンモール街や花銀通り等がある小樽市内をぶらぶら散策する。花銀通りでは、本日と明日にかけお祭りがあった。昼食が遅かったので、腹は余り減っていなかったが、夕食として、花銀通りにある模擬店前(15日と16日の両日祭り)で酢だこをつまみにして札幌ビール(クラシック)を頂く。夜食用に揚げパンとポップコンを購入する。明日の作戦を練って、一日目は終了。小樽から長万部にかけて、ダイヤの大幅の改定にビックリ。小樽駅でのダイヤを観てよかった。



小樽市内散策



第3節 2日目：6月16日（木）曇り/晴れ

朝3時過ぎに起床し、小樽駅6時13分の列車で然別（しかりべつ）に向かう。ワンマンカーで1両編成の非電化の車両だった。運賃は540円。乗客は数人だった。塩谷駅で下り列車と離合する。小樽から長万部までは非電化の単線。余市駅から高校生が乗って来る。小樽から蘭島にかけて、山間が続き、歩くのに骨が折れそうな道筋であった。目的地の然別駅には6時52分到着。駅舎は山小屋風の建物だった。



小樽駅

然別駅



到着するや否や3両編成の列車がやって来る。上り列車は、数分停車していた。6時56分、渡橋という地名を通過。7時4分、150mある然別トンネルを通過。7時17分、213歩ある余市川を通過。この手前で分岐点があり、直進すべきか右折すべきか迷うが、結果的に右折し大成功。やはり、鉄道に近づく路が安全と今回でも確認できる。沿線には至ところで仁木町の旗が揺らいでいた。また、ビニールハウスが至ところで見られた。昨年のロールの風景とは全く異なった。それ故、牧場の風景も余り見るができなかった。7月29分、国道5号線に出る。この辺りから曇り空から晴れ模様となる。7時41分、北明山仁玄寺/高野山真言宗前を通過。沿線には果物直売センターがあった。7時45分、立派な松の前を通過。7時52分、仁木西町中央バス停前を通過。7時58分、130周年を迎えた仁木小学校前を通る。校門前では教員が児童を迎えていた。8時5分、誤って神社通り踏切を渡ろうとするが、また引き返す。8時13分、本日最初の仁木駅に到着する。



仁木駅への道



仁木駅



余市駅

駅舎には果物（いちご・トマト・オレンジ）が一杯の看板があった。この駅近郊は、本州の余り変わらない風景であった。すなわち、水田ありビニールハウスと。8時33分、83歩ある種川橋（種川）を渡る。8時37分、協和バス停前（中央バス）通過。この辺りで、大阪出身の方（69歳）の方と出会う。今朝、小樽港に到着し、8月15日位まで滞在し、北海道の旅を楽しむとのこと。この方は、車をホテルにして、車を起点に歩くとのこと。健康のためと美味しい酒を飲むため。この方の余市駅手前まで20分位、歩きながら語り合う。9時10分、余市町立黒川小学校前を通過。この学校の門前には、「ニュートンのリンゴ/国際宇宙毛利先輩宇宙飛行記念」と記した看板があった。

9時22分、余市駅に到着。駅舎は近代的な建物だった。「ジャンプ王国よいち」や「松と熊の像」が印象的だった。駅から少し行った先に余市信金があった。直ぐ近くに余市町中央公民館があった。9時37分、小樽19km、札幌57kmと記した道路標識前を通過。暫く海岸線を歩く。10時41分、畚部橋（ふぼうべ：畚部川）を通過する。アイヌ語で「浪声高き所」とあった。北海道は特に難しい漢字や発音の地名や駅名にあるのには驚いた。10時45分、栄町バス停前通過。10時48分、畚部トンネルを通過。10時55分、73歩ある蘭島橋（蘭島川）を渡る。橋の手前でホテルランがある。沢山の犬の姿があった。11時4分、三角屋根が印象的な蘭島駅に到着。



畚部橋



蘭島駅

11時23分、877歩ある忍路トンネルを通過。11時36分、忍路バス停前の駅舎で小休止して、昨晚購入したおにぎりを食べようと思ったところ、小樽行きの定期バスがやって来る。食事は取りやめ、バスに乗らない旨を意思表示する。11時55分、659歩ある桃内トンネルを通過する。函館から233km地点で、行儀は悪いが食事する。地名は桃内と記されていた。ここから海岸線を離れ、山間を歩くことになる。12時12分、小樽10km、札幌48kmの道路標識前を通過。12時15分、649歩ある笠岩トンネルを通過する。12時22分、トンネルを出るや否や945歩ある塩谷トンネル(541m)があった。12時45分、小樽市立塩谷中学校前の看板前を通過。道路から少し上がったところに駅舎があった。辺りには民家は殆どなかった。恐らく無理やり作った駅と思われる。12時58分、山間にある塩谷駅に到着。

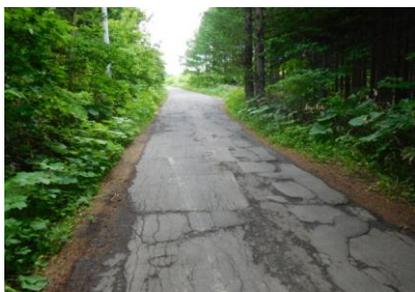


笠岩トンネル



塩谷駅

13時6分、道路下にJR線があった。すなわち、JR線の右側を歩くことになる。13時30分、長橋方面の看板が見えたので、少しでも鉄道に近づく道筋を選択する。30分位、熊が出そうな山道を歩く。笛を吹きながら進む。13時58分、長橋一丁目の看板を見て安堵する。14時8分、5号線に出る。前方の踏切を列車が通過して行く。14時12分、万歩計で772歩ある砂留トンネル(460m)を通過。14時33分、龍宮神社前を通過。小樽駅には14時37分到着。三角市場のさんかく亭で、ビールを飲みながら三色丼(2,400円)を頂く。ホテルには15時15分到着。初日を無事歩き終えホットする。本日の営業キロは28.4km、万歩計は52,838歩だった。ホテルで一服後、ローソンで夕食と明日の朝食を購入する。



小樽駅への道



朝の然別駅

第4節 3日目：6月17日(金) 雨／曇り

3時過ぎに起床し、昨日と同じ、小樽～蘭越行き6時13分の電車で然別駅に向かう。本日はリュックを背負っての歩きとなる。駅に下りて、万歩計がないのに気付く。多分、列車の中に忘れたと考え、引き返す。運よく一人掛け座席に万歩計がありホットする。運転手にお礼を言って列車を再度後にする。7時陸橋を渡り、鉄道の左側となる。7時5分、国道5号線に合流。少し行った先で雨模様となったため、リュックにカバーを着せる。7時23分、道路に出ているカタツムリを葉っぱの上に置いてあげる。7時53分、大江小学校前を通過。辺りには水田やビニールハウスが広がっていた。8時15分、240歩ある余市川(大

江橋)を越える。9時5分余市行きバスと対面する。雨のため、デジカメとメモの記録は減少する。時々トラックの水しぶきを被る。



銀山駅への道

8時38分、国道5号線から銀山方面と記した道道1022号線に入る。30分位不安な歩きが続く。花を売っている店が見えたので、銀山駅の道筋をお尋ねする。「10分位歩いた先の銀山学園を右折し、真っ直ぐ進めば銀山駅に到着します。ただし、途中、急な坂道があるので、気をつけて行って下さい」と。銀山学園の交差点には9時33分到着。途中、老人ホームのような施設があった。銀山駅には9時51分到着。空が少し明るくなる。この駅から次の駅の小沢駅には銀山の山並みがあり通り抜けられないので、国道地点まで引き返すことにする。



暗中模索で進む



銀山駅

10時11分、銀山学園の道路標識まで戻る。10時24分、倶知安30km、余市18kmの道路標識前を通過。11時5分、国道5号線に戻る。11時10分、初めて長万部、函館の地名を目にする。函館209km、長万部102km、倶知安27kmとあった。11時16分、道路下にJR線があった。鉄道の右側となる。1時43分、天気は回復して、前方に青空が見えるところもあった。11時46分、稲穂峠(7号目)を越える。この辺りで暑くなり、上着を脱ぎ、サングラスを着用する。12時2分、2093歩ある稲穂トンネルを通過する。



国道への道

倶知安27km地点



青空が見える

共和町国富

12時24分、トンネルを出ると共和町国富であった。その先に函館204km、長万部97km、倶知安22kmと記した道路標識があった。12時48分、225mある島付内トンネル(万歩計337歩)を通過。15時5分、岩内に向かっていて親切な夫婦連れのドライバーが私の前で車を止める。そして「どこから来て何処まで行くの。よかったらお送りしましょうか」と応答あり。これに対し、「有難うございます。数日前神奈川から鉄道つたい歩きのため小樽まで来ました。今回は小樽から函館まで歩きます。本日は然別駅を出発して、本日は倶知安まで歩きます。まもなく日本縦断が完成します。それゆえ、結構です」と丁寧に応える。「小沢駅はすぐ行った先を左折し、暫く歩くとあります。気をつけて歩いて下さい」と激励のメッセージをもらい別れる。



共和町 ニセコバスの国富営業所

13時38分、道路だけの世界から、やっと企業の建物が見える。今回の駅間の営業キロは、然別＝銀山が10.7km、銀山＝小沢が9.8km、小沢＝倶知安が10.3kmと長い。14時12分、中央バス、ニセコバスの国富営業所があった。14時21分、やっと国富交差点に到達する。その先に函館196km、長万部89km、倶知安14kmの道路標識がある。島付内橋を渡ると105mある国富トンネル(167歩)があった。14時36分、民家を目にする。14時48分、左手高台に上り列車を確認する。この地点は函館まで195km地点であった。また、共和町小沢（こざわ）と記した看板があった。小沢駅が近いと予感する。15時3分、西隆寺があった。15時10分、小沢駅に到着。



函館から195km地点 小沢駅

ここから、再度雨模様となる。15時17分、小沢跨線橋を通過。鉄道の右側となる。ひょうとすると左側かもしれない。雨の中のために、鉄道の跨る地点が不明となる。15時57分、小鳥と対面する。車に轆かれそうなところにいたので草村の方に誘導してあげる。怖いのか、鳴き声が高まっていた。16時17分、道路下を鉄道が走っていた。鉄道の左側となる。16時34分、114歩ある盤の沢トンネルを通過する。函館189km地点だった。17時、函館187km、ニセコ20km、倶知安5km地点に到達。

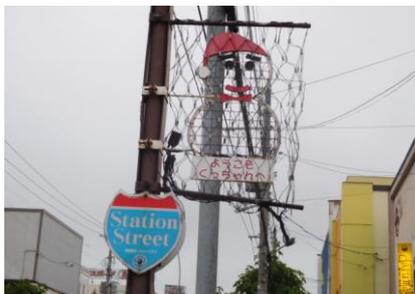


小鳥と対面

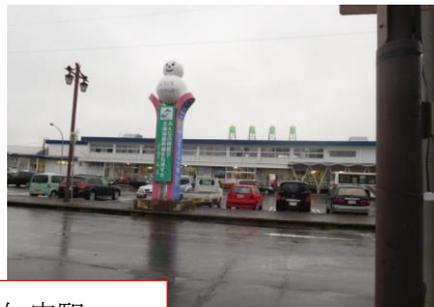


盤の沢トンネル

17 時 30 分、雪だるまの街道の看板を目にする。17 時 38 分、倶登山川（倶登山橋）を通過する。17 時 39 分、倶知安町琴平地点を通過、沢山の信号を目にする。18 時 18 分、雪だるまが駅前にある倶知安駅に到着する。ビジネス駅前ホテルには 18 時 20 分到着。予約の手続きが上手くなされていなかったが、北海道旅行プランを見せて、宿泊を許可される。308 号室であった。明日の朝のみ注文する。料金は 2 泊分と明日の朝食を含めて 8,600 円だった。ただし、ウォシュレットでもなくかつ冷蔵庫もなく、多少不自由さを感じた。夕食は商店街にあるラーメン「なかま」で摂る。本日の疲れをビールなどで取り払う。ラーメンは腰がありとても美味しかった。コンビニで明日の昼食用の間食などを購入。本日の営業キロは、30.8 km、万歩計で 69,840 歩だった。



倶知安駅



倶知安駅



ビジネス駅前ホテル



ラーメン「なかま」 俱知安駅前

第5節 4日目：6月18日（土） 晴れ／曇り

5時過ぎ起床。5時40分から6時位まで、駅前近郊を散歩。7時、ホテルに面した“えぞ家”で朝食を済ませ、ホテルを7時23分頃出て、俱知安駅構内をデジカメに収める。本日は7時50発の列車で蘭越駅に向かう。この列車は、6月16日（木）、17日（金）と小樽から然別まで乗った列車と同一列車。1両編成のワンマンカー。すなわち、小樽＝蘭越の区間の列車。比羅夫には7時58分、ニセコには8時6分、そして蘭越には8時27分到着。数人がこの駅で下車する。



俱知安駅 比羅夫駅



蘭越駅

8時37分、閑散とした商店街を抜けて国道5号線に出る。8時40分、札幌128km、小樽91km、ニセコ19kmの道路標識前を通過。8時50分、JR線を横切り、鉄道の右側を歩く。9時8分、水田が広がっていた。9時16分、昆布西の看板あり。9時21分、道路の直ぐ左側に鉄道があることを確認。9時30分、浅野踏切あり。9時57分、ニセコバスの昆布西のバス停があった。10時9分、昆布の地名を見つけ、「昆布駅近し」と察知。10時20分、本日最初の昆布駅に到着。



昆布駅への道

昆布駅

駅前には“湯泉閣”の看板、ニセコエリア観光案内所があった。この案内所に立ち寄って、ニセコ、比羅夫辺りの概略の地図を頂く。ニセコ駅、比羅夫駅との国道5号線に沿ってあったが、国道から曲がる地点が明確には表示されていなかった、10時33分、118歩ある昆布川橋を渡る。この川を渡ると、ニセコ町西富という地名であった。10時42分、札幌121km、小樽83km、倶知安23kmの地点に到達。10時35分、左手に鉄道の陸橋を確認。11時16分、福井という地名があった。11時31分、国道は離れ脇道に入る。



ニセコ界隈の地図 ニセコ町西富



脇道からのニセコ町風景

ここからニセコの街並みを堪能する。広大な田園が広がっていた。11時58分、ため池があった。11時59分、トラクターが私を追い越して行く。12時3分、紛らわしい地点に到達。真っ直ぐ前方には路が続いていた。この橋の下には鉄道があった。この鉄道を観て、橋を渡るのは中止する。10m位引き返し、農免農道ニセコ南西地区の方面の方向に進路変更する。



ニセコ南西橋 農免農道ニセコ南西地区看板

12時12分、弓部橋を通過。左手に鉄道があることを確認する。12時16分、森林を切り開き、畑などになっている地点を通過。12時20分、朝列車でニセコ駅近くにあった黄土色の橋を高台から確認する。でも、この橋までが実に遠かった。この近くには暖炉用のまきがあった。12時30分、ルベンジ橋（万歩計で51歩）を渡る。



誤った地点の風景

12時34分、広大な開拓地前を通過。前方に街並みが見えるが行けず。進路を誤ったため。前方に雲を冠った羊蹄山がある。30分位ロスト。昆布方面に誤って後戻りしていた。庭先で作業をしていた女性に、親切にも、ニセコ駅への地図を書いて頂く。2km位、進路を誤っていた。坂を下っていた。ジョギングでリカバリーする。ニセコ駅には13時39分到着。



ニセコ駅

積み木の城のような駅舎であった。坂を下った先にあった。有島記念館への案内板があった。13時55分、ニセコの街並みをデジカメに収める。粋な街並みであった。14時5分、運動公園前バス停前通過。14時7分、181歩あるニセコ望羊橋を渡る。橋の下に水田があるのにはビックリ。ニセコは随所で開拓精神が旺盛なのにはビックリ。14時12分、札幌111km、小樽73km、倶知安13kmの道路標識あり。その近くに道の駅ニセコビュープラザあり。道の駅に立ち寄った年配の方から激励を受ける。14時16分、93歩ある加舜橋歩道橋を通過。14時31分、木嶋牧場前通過。14時33分、羊蹄山を背景に乳牛をデジカメに収める。牧場での牛との対面は、今回の旅行では最初で最後であった。この辺りで、羊蹄山を見学に来たという年配の方（軽自動車）と対面する。14時40分、頂上に雲のない羊蹄山をデジカメに収める。14時43分、札幌109km、小樽71km、倶知安11kmの道路標識あり。14時53分、有島記念館の案内板前を通過。直ぐ先に、ニセコ町羊蹄の地名があった。